

新庁舎建設の基本的な考え方

(市民アンケート、市民会議を受けて)

総務課

※市民アンケートの結果を受けて

- 新庁舎で重要視することに対する回答は、①災害時の防災拠点として庁舎、②誰もが利用しやすい庁舎、③経済性とコンパクト性。（回答数順）
- 加えたい機能（施設）に対する回答は、①駐車場②災害時の避難スペース、備蓄機能③わかりやすい案内機能④誰もが利用しやすい機能⑤窓口の集約（回答数順）
- 上記のアンケートの結果から、災害への対応と利便性に対する強い関心を読み取れます。

※市民会議の結果を受けて

- 「1.防災」「2.鳴門の特色を出す」「3.市民と職員の交流の場を」「4.バリアフリー」（1班）
- 「鳴門を世界に発信できる庁舎」「市民が自慢できる庁舎」（2班）
- 「市民の安心安全を守る、にぎわいあふれる鳴門らしい庁舎」（3班）
- 「未来の子ども達も安心、負担の少ない環境（CO2、リサイクル）に配慮した市役所」（4班）
- 「みんなで考え作る庁舎」「市民が集い、誰でも使える庁舎」「車を使わない社会を目指す庁舎」（5班）
- 上記の各班のコンセプトでは、庁舎の安全性、交流機能、鳴門らしさに関する部分に関心が読み取れます。

(1) 基本理念

新庁舎建設事業の根幹をなす基本的目標として、5つの基本方針及び**市民意見（市民会議、市民アンケート）**を踏まえた基本理念を設定します。

【新庁舎建設の基本理念】

市民の安心安全をまもり、絆をはぐくむ鳴門らしい庁舎

< 説明 >

「市民の生活を支える」という、従来の市役所庁舎の位置づけを堅持しつつ、これまで以上に、市民に親しまれ、市民の絆をはぐくむ「**つながりの拠点**」となることを目指すとともに、防災・災害対応拠点として、「**市民の生命と財産、生活を守る最前線基地**」となることを目指すという方向性を表現しています。

※ 市民意見より関心の高い順に文章を整理しています。

防災→利便性→交流機能→鳴門らしさ

(2) 基本方針

新庁舎建設の具体的な方向性を示すものとして、5つの基本方針を設定します。

基本方針1：誰もが利用しやすく、質の高い市民サービスを提供する庁舎

- 市内に分散している庁舎機能を集約するとともに、市民が多く利用する窓口を集約し、ワンフロアで対応できる体制を整える。
- 誰もが安心かつ快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインの導入を図る。
- 「わかりやすくて迷わない」、「手続きが早く済む」、「安心して相談・手続きができる」に注力した仕組みを取り入れる。
- 市民サービスの向上のため、市職員の業務効率の向上につながる機能の導入を図る。

基本方針２：防災拠点にふさわしい、安全安心な庁舎

- 南海トラフ巨大地震や中央構造線活断層地震等の大規模地震の発生に備え、高い耐震安全性を確保するとともに、被災後においても業務が継続できる性能を確保する。
- 津波による浸水被害に備え、災害レベルと発生確率を考慮した複合的な浸水対策を導入する。
- 災害時と平常時という垣根を取り除いた、フェーズフリーの観点に基づいた庁舎環境の整備を図る。
- 開かれた市役所庁舎とすることを前提に、市民等の重要な情報を守るため、十分なセキュリティレベルを確保する。

基本方針３：市民がつどい、親しまれる庁舎

- 市民が市役所を身近に感じられるよう、内部空間の設計・設備に配慮するとともに、会議室や付帯設備など、市民が利用できるスペースの導入を検討する。
- 市政に関する情報や、市民活動に関する情報を発信する情報スペースの整備を行う。

基本方針4：経済的で将来の変化に対応できる庁舎

- 施設の長寿命化や維持管理の効率性など、ライフサイクルコストを考慮した経済効率の高い庁舎整備を図る。
- 社会情勢や市民ニーズなど、本市を取り巻く環境の変化に対応できる将来性と柔軟性を兼ね備えた機能と空間の整備を図る。
- 最新のICT・IoT技術等の積極的な導入を検討し、今後の情報技術の進展にも対応した環境整備を図るとともに、事務管理負担の省力化や人件費の軽減を図る。

基本方針5：環境にやさしく、周辺環境と調和した庁舎

- 環境負荷の軽減を図るため、省資源・省エネルギー施設・設備の導入を図り、また、再生可能エネルギーの導入について検討する。
- 建物本体での省エネルギー化に向け、自然光、自然通風、LED照明等の採用を検討する。
- 周辺環境との調和を図るため、良好な景観形成を目指す。